

ARRS (The American Roentgen Ray Society Annual Meeting) 2019 報告

久原 麻子

2019年にハワイで開催されたARRSに参加させていただきました。

ARRSは、AJRを機関誌とし、米国で最も歴史のある放射線学会である。

全身の各種画像診断の専門家の教育講演やシンポジウム、医用画像での3D printing応用の展示、レントゲン博士の歴史、ハワイらしいサーフボードやレイのディスプレイなどがあり、会場は多くの参加者で熱気に満ちていた。



当科から二例発表した。

角先生の発表：Evaluation of Thymic Epithelial Tumors and Malignant Lymphomas in Anterior Mediastinum using MR Imaging



96例の胸腺上皮性腫瘍と前縦隔悪性リンパ腫のMRI所見の検討。胸腺上皮性腫瘍と前縦隔悪性リンパ腫の鑑別には、ADC値、血管浸潤、リンパ節腫大が、胸腺腫と胸腺癌の鑑別にはADC値と血管浸潤、ダイナミックパターンが有用だった。

久原：Comparison of Maximum Standardized Uptake Values of Malignant Lymphomas with Other Anterior Mediastinal Tumors Using ^{18}F -FDG PET

縦隔悪性リンパ腫と他の縦隔腫瘍のFDG-PETでのSUV値の比較。SUVmax \geq 8.8と腫瘍サイズ10cm以上で腫瘍生検や化学療法を検討する場合が多かった。



海外で初の口頭発表だったが、藤本先生と角先生の心強いサポートがあり、思ったよりは緊張せずに発表することができた。発表のセッションが始まる前に座長二人に挨拶し、初めての発表だと伝えたら、屈強な体格のアメリカ人座長は“**You will be okay. We're your side.**”（みたいなことを）言って、不安げな私に握手し肩をたたいてくれた。私の緊張が少し和らいだことは言うまでもない。若い先生も、発表の際は、事前に担当座長へ挨拶しておくことをお勧めしたい（国内外に関わらず）。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださった安陪先生をはじめとする医局の先生、同門の先生、指導してくださった藤本先生、角先生に、この場を借りて感謝を申し上げます。



ハワイの食材を感動の和食へ変えてしまう中澤圭二氏と@sushi匠